



『まえだとし女 全句』

寄植のパセリに透けて今日の雨  
麦秋の鴉が列車を遣り過す  
アマリリスおかまひなくと咲きにけり

まえだとし女

アマリリス買ひ来し人の那須野かな  
構内の暗さの端にくず餅屋  
行く春や館内切迫の指示耳に  
たまねぎの白光おほよそ六七個  
会館の柱に思ふ夏の菊  
夏暁や自然科学部五日目に  
黄金週間さなか一人の一日あり  
子どもへのはがきに大き蟻が十  
その駅はカムパネルラか日照草  
南風手くびのシュシュと兎と荷物  
夏岬次にははれてゐることと

『まえだとし女 全句』

